

呉市生活支援等サービス体制整備事業の取組について

呉市社会福祉協議会

1 目的

単身や夫婦のみの高齢者世帯，認知症の高齢者が増加する中，医療，介護サービスの提供のみならず，住民に身近な存在である市が中心となって民生委員，老人クラブ，地区社会福祉協議会，シルバー人材センター，NPO法人，市社会福祉協議会，社会福祉法人，介護サービス事業所，民間企業，協同組合，ボランティア，地縁組織，商工会等の生活支援サービスや介護予防サービスを担う事業主体と連携しながら，多様な日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の促進を一体的に図っていく。

大きな「ねらい」

- 地域の高齢者が支え合い活動などへ社会参加することを促す
- 地域の支え合い活動などを充実・強化・創出する
- その地域ならではの支え合いの仕組みづくりを推進する

まとめると
**互助による
 生活支援の
 仕組みづくり**

2 推進体制

(1) 協議体（話し合いの場）

住民自身が主体的に地域のことを考え，地域の夢（将来）を描き，思いを共有する場。呉市では3つの階層をつくるとともに，住民主体の取組の活性化を図るため，第3層からのボトムアップを目指している。

第1層（呉市全域）：呉市の福祉を考える場

- 各地区の取組状況を共有
- 呉市全体に関わる地域福祉を協議 などを行う場

本日の会議は
ここに
位置付けられる

↑↓ 連携

第2層（自治会連合会区域）：地区の福祉を考える場

- 単位自治会の話し合いの場の取組状況を共有
- 他地区の取組状況を共有
- 地区全体に関わる地域福祉を協議 などを行う場

↑↓ 連携

第3層（単位自治会・サロン区域）：地域課題やニーズをつかむ場

- 自治会内の地域課題を共有
- 地域課題の解決策や改善点などを協議
- 自治会内で解決策や改善策の取組の検討や実施 などを行う場

(2) 生活支援コーディネーター

協議体メンバーと協働しながら、暮らしの中にある様々な知恵や工夫などを見つけ出し、意味づけし、周囲に見える化（住民主体の活動広報チラシ、くれ福祉のお役立ちサイト「しっとってクレ」及び広報紙「ずっと元気でおってくれ」への掲載など）をする。人と人、人と場、人と支援・情報などさまざまなものをつなぎ、ネットワークをつくる調整役。

3 平成27年度（事業開始）から令和5年度までの成果

(1) 協議体の組織化状況

別紙1を参照

(2) 令和5年度の協議体活動実績

	中央	天心・吉浦	昭和	宮原・警固屋	東部	川尻・安浦	安芸灘	音戸・倉橋	計
第2層協議体									
設置か所	1	2	1	2	4	1	3	2	16
会議開催回数	0	1	0	2	2	0	4	1	10
第3層協議体									
設置か所	6	6	1	5	19	7	4	4	52
会議開催回数	8	0	0	2	53	10	5	4	82

※新型コロナウイルス感染症拡大により開催延期・中止または住民主体の課題解決能力が向上し、協議体を必要としない取組あり。

(3) 協議体で話し合い、創出された住民主体の活動

ア 見守り合い活動（15か所）

イ ふれあい・いきいきサロンなどの居場所づくり（6か所）

ウ ゴミ出しやちょっとした困りごとの生活サポート（2か所）

エ 社会福祉法人と連携した買い物移動支援（2か所）



▲見守り合い活動



▲居場所づくり



▲生活サポート



▲買い物移動支援

4 本日、委員の皆さまと一緒に考えたいこと

生活支援コーディネーターは、第2層及び第3層協議体会議のみならず、ふれあい・いきいきサロンや地域のさまざまな行事に参加しながら、地域住民の声を拾ってきました。その中でも、生活に直結する「買い物」に不安を感じている人が多くいることがわかりました。

(1) 不安を感じている具体的な内容

買い物するための移動の不安

- ・加齢によるさまざまな機能低下を懸念し運転免許証を返納したいが、車がないと生活に支障をきたすため、**返納することを躊躇う。返納後は、今住んでいるところで暮らすことは難しい**と感じている。
- ・ご近所さんの車に同乗させてもらっているが、ご近所さんも高齢のため、**ずっとお願いすることはできない。**
- ・車での生活に慣れているため、**バスの利用方法に戸惑う。**またバスのステップが高いため、荷物を持っていると余計に乗り降りに時間がかかるため、乗客が多い時間帯は避けている。
- ・年金で生活を営んでいるため、毎回の買い物にタクシーを使うことは難しい。
- ・自宅付近が急峻な道のため、タクシー運転手から乗車を拒否されることがある。

買い物後の持ち運びの不安

- ・バスを降りた後、自宅まで**買ったものを運ぶことができない。**
- ・自宅付近が急峻な道・階段のため、ドアツードアでタクシーを利用することができず、降車後に重いもの・大きいもの（例えば、お米、トイレットペーパーなど）を運ぶことが難しくなっている。
- ・ご近所さんが必要なものを買ってきてくれるため、今は何とか生活できているが、お互いに高齢のため、継続は難しい。

その他

- ・スーパーなどの移動販売車を利用しているが、ほしいものは売り切れていることもある。
- ・移動販売車に継続して来てもらうために unnecessaryなものも購入している。
- ・生協やネットスーパーなどは便利だと思うが、**注文方法が難しい。**

(2) 買い物で得られる効果

ア 運動機能の向上

店まで移動する身体機能、店内を移動する下肢機能、商品を手に取ったりお金を受け渡したりするなど

イ 認知機能の向上

購入するものや商品棚の位置を覚えておく、予算に合わせて購入するなど

ウ 心の豊かさの増進

自ら選択する機会をつくることで欲求が生まれ、意欲が生まれるなど

(3) 生活支援コーディネーターが考えた取組案

3 ページ(1) (2)を受けて、5年後10年後も安心して住み慣れた場所で暮らし続けることができるよう、高齢者自身も将来に備え、元気な“今”からできること、これまでのようにご近所さん同士のつながりを大切にしながらも、特定の個人にだけ負担がかからないことをポイントに取組案を考えました。

ア 元気なうちから乗り慣れよう！バスでお買い物ツアー

バスの乗り方・支払い方法まで伝達・サポートし、実際にバスを利用して買い物に行くことに慣れることで、運転免許証返納の時期に備える。

イ お手伝いタクシー

タクシー利用者のうち、希望者に対しタクシー運転手がサービス提供を行う（例：店内の同行、買い物代行、タクシー降車後に自宅まで荷物を運搬。費用は要検討）。また、隣近所の住民同士で乗り合わせることで、一人あたりの利用料金を安価になる。

※市内のタクシー会社が店内の同行や買い物代行のサービスを提供しているが提供エリアが限定されている

ウ お買い物サロン

つどいの場の中で、生協やネットスーパーなどの注文を得意な人が担い、取りまとめて注文することで、安価な送料で利用できる。また、1袋当たりの内容量が多いものは、参加者で小分けにすることで一人暮らしの人にも必要な分だけ購入することができる（フードロスの効果あり）。

エ スーパー・企業などの移動販売車・送迎車の経路拡大

自宅から近い場所で購入することができる。

オ 呉市福祉タクシー乗車券の対象者拡大

外出を促すことができる。

上記の取組のうち、「イ お手伝いタクシー」「ウ お買い物サロン」について、所属する団体ができること、取り組めそうなことを協議します。

協議のポイント

- ①所属する団体で現在、取り組んでいること
- ②所属する団体で、これから取り組むことができること
- ③所属する団体だけでは取り組むことができないが、他団体（具体的に）と連携することで実現可能な取組